



年頭のごあいさつ

一般社団法人兵庫県農業会議

会長 藤本 和弘



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年9月に、県内全ての農業委員会が新体制に移行し、改正法施行後の3年間で農業委員586人、農地利用最適化推進委員492人が選任されました。委員総数は1078人で、移行前に比べますと113人(11・7%)の増加となりました。

私ども農業会議におきましても、知事より農業委員会ネットワーク機構の指定を受け、会員各位並びに県当局のご支援のもとで、農業委員会への支援や農地法などに基づく業務、担い手の育成支援などに取り組んで参りました。重点である「農地利用の最適化」に向け、今後も農業委員

会組織が一致団結し、活動を充実させていかねばなりません。

国は、農業を取り巻く現下の厳しい状況を踏まえ「農林水産業・地域の活力創造プラン」などに基づく施策を進めています。とりわけ本年は、TPP11の発効などによる国内農業への影響が懸念されま

すほか、日米物品貿易協定の交渉の行方も不透明であり、農業の体質強化対策、農村地域対策などの充実が喫緊の課題となっております。人口減少社会を迎え、農業者の減少と高齢化が加速する中、本県では、「ひょうご農林水産ビジョン2025」の実現に向けた担い手育成や農畜産物のブランド力強化、生産コスト低減対策、地域活力の創造を図るための「地域創生」が推進されています。

発行所

一般社団法人 兵庫県農業会議  
神戸市中央区下山手通4丁目15-3  
兵庫県農業共済会館内  
編集発行人 藤本英樹

主な内容

- ◇31年産市町別主食用米生産目安……………二
- ◇但馬地区農委会交流研修会開催……………三
- ◇兵庫県農業賞 農業振興の貢献者を表彰……………三
- ◇三田市農業委員会 市長に意見書提……………四

農地制度の適正執行に加え、「人・農地プラン」など地域の合意形成を積極的にリードし、農地中間管理事業の活用による農地利用集積・集約化、担い手の育成支援、遊休農地発生防止・解消などにつなげていかなるはなりません。

平成31年新春メッセージ

兵庫の新たな歴史を築く

兵庫県知事

井戸 敏三



新年あけましておめでとうございます。

4月には平成が終わり、5月から新元号の新たな時代が幕を開けます。さらに、9月のラグビーワールドカップ世界大会を皮切りに2021年のワールドマスターズゲームズ2021関西に続くゴールドメンスポーツイヤーがはじまります。2025年大阪万博

現場活動の更なる活性化に向け、農業委員会への支援に精一杯努めて参る所存でございますので、関係各位の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

の開催も決定しました。今後、日本、関西、兵庫に世界の関心が集まることでしょう。

兵庫は、神戸港の開港以来、海外の文化や産業を取り入れ日本を先導してきました。それだけに、この機を捉え、世界の成長を呼び込み、人口減少と高齢化が同時に進む中でも、将来にわたり活力に満ちた地域としなければなりません。

五国の多様性を活かし、「兵庫2030年の展望」を描く自分らしい生活や働き方ができる「すこやか兵庫」の実現

をめざして、新時代のふるさと兵庫を創ります。

第1は、安全安心で豊かな暮らしの実現。頻発する自然災害や来るべき大規模災害への備えを強化します。また、子育て環境の充実や医療介護体制の確保など、安心して暮らせる基盤をつくります。

第2は、未来へ続く地域活力の創出。次世代産業の創出や新事業展開の促進、農林水産業の基幹産業化を進めます。また、地域と世界で活躍できる人材の育成に加え、誰もが生涯活躍できるような、学び直しや多様な働き方を支援します。

第3は、国内外との交流・環流の拡大。インバウンド対策など内外からの誘客促進や五国の持つ資源を生かしたツーリズム人口の拡大、県外県民「ひょうごe県民」の登録など人口の環流促進を図ります。高速道路の整備や空港、港湾の有効利用など交流の基盤となる交通インフラを充実します。

いつの時代も、ふるさとの将来に夢や希望を持ち、果敢に挑む人々が兵庫の明日を切り拓いてきました。兵庫の新たな歴史を築くための第一歩を共に踏み出していきます。

兵庫県150年 新スタート 五国を活かすすこやかめざす

平成31年産米の市町別主食用米の生産目安 (全体数量及び面積換算値)

兵庫県における主食用米の生産目安  
同面積換算値

151,296 玄米ト  
30,139 ha

市町名	平成31年産米 市町別の 生産目安	
	玄米ト	面積換算値 ha
神戸市	9,656	1,890
尼崎市	180	38
西宮市	321	68
芦屋市	3	1
伊丹市	212	43
宝塚市	818	167
川西市	245	50
三田市	4,327	852
猪名川町	891	182
明石市	1,557	303
加古川市	5,779	1,103
高砂市	566	111
稲美町	4,059	779
播磨町	119	23
西脇市	1,396	286
三木市	2,520	522
小野市	4,351	846
加西市	7,418	1,446
加東市	2,821	564
多可町	2,028	433

市町名	平成31年産米 市町別の 生産目安	
	玄米ト	面積換算値 ha
姫路市	9,774	1,928
神河町	1,586	335
市川町	2,091	426
福崎町	1,726	338
相生市	963	189
赤穂市	2,087	405
上郡町	2,006	396
佐用町	3,144	638
たつの市	6,555	1,256
宍粟市	4,485	930
太子町	964	186
豊岡市	13,100	2,569
香美町	2,480	513
新温泉町	2,511	513
養父市	3,413	689
朝来市	4,550	905
篠山市	10,741	2,157
丹波市	13,266	2,758
洲本市	4,060	801
南あわじ市	7,901	1,558
淡路市	4,626	923

(注)面積換算値:市町別配分基準単収を用いて数量を面積換算した値  
 主食用米の「生産目安」については、需要を踏まえた適切な作付判断を後押すための目安として示すものです。  
 平成29年産米までの「生産数量目標」とは目的・性質が異なる点に留意願います。

# 31年産市町別主食用米生産目安 15万1296玄米トに

県農業活性化協議会は12月12日、平成31年産主食用米の生産目安を各市町別に示した。県全体の生産目安は15万1296玄米ト(酒造好適米を除く)、面積換算値で3万

139haとなった。11月末に国から示された31年産米の全国の需給見通しでは、近年の人口減少を反映し、平成30年産と比べ、全国で9

万トンの減少。同協議会において需要動向を調査し分析したところ、引き続き実需者から県産米への追加需要があることから、平成31年産生産目安は平成30年と同水準とした。市町別の生産目安は各地域協議会の平成31年産生産目安の意向、過去の作付実績、生産余地を踏まえて別表のとおり算定した。

## 先進的な農業経営を目指す

## 農業経営トップランナーセミナー

県農業会議は12月11日、神戸市産業振興センターで、ひょうご農業MBA塾の受講生と修了生を対象に「農業経営トップランナーセミナー」を開いた。異業種連携により農林漁業や県産農産物の新たな価値の創造をめざす「農」イノベーションセミナーと共同開催し、農業者、第2次・3次産業従事者、行政関係者など約80人が参加した。

静岡県の(株)鈴生の鈴木貴博代表取締役が「露地野菜の契約栽培で上場を目指す」と題して、良い作物をつくる「人材」づくりや組織運営、子会社設立、JGAP、ICTの取り組みについて講演した。また、(株)オプティムからドローンを活用した農業などが紹介された。

参加者同士によるワークシヨップでは、スマート農業など、生産性や経営向上のための具体的な取り組みについて意見交換を実施した。

## 謹賀新年

平成31年1月1日  
一般社団法人兵庫県農業会議

全国農業新聞・12月増部  
 全国農業新聞の普及について、12月に増部したのは5市町。(一)内は増加部数。①養父市(8)、②洲本市、西脇市、南あわじ市、淡路市(各1)

藤本英樹	古倉昌明	岸本富生	大谷和博	古村史平	新岡明雄	十三倉恒夫	吉浦知之	石田忠正	大谷宏行	池内禧紹	馬場則雄	中上重信	井上重信	廣納正道	西浦和弘	副会長	藤本和弘	理事	藤本和弘	監事	藤本和弘	事務局長	藤本和弘	事務局職員	藤本和弘
------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	-----	------	----	------	----	------	------	------	-------	------

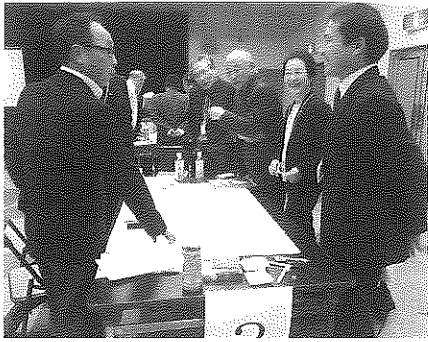
# 但馬地区農委会交流研修会開催

## 県農業会議

県農業会議は12月3日、養父市のJ A たじま八鹿総合営農センターで「但馬地区農業委員会交流研修会」を開き、農業委員・農地利用最適化推進委員ら44人が参加した。

研修では、県農業会議から農業委員会をめぐる情勢について報告したほか、参加者が5グループにわかれ、少人数でのグループ討議を実施した。合同会社人・まち・住まい

研究所代表の浅見雅之氏から、地域における話し合いの進め方について指導を受けた。浅見氏は、地域での話し合いは、みんなで決めることが大事で、みんなで決めるということは、できるだけ多くの



和やかな雰囲気で行われるグループ討議

納得を引き出すことが大事と説明。「集落の農地を守る方法を考えよう」をテーマに参加者は、それぞれの意見をふせんに書き出し、その後グループで意見を集約していく

## 兵庫 県農業賞

### 農業振興の貢献者を表彰

12月4日、県公館で平成30年度兵庫県農業賞の表彰が行われ、元加西市農業委員の増田薫さん夫妻のほか2人、1団体が受賞した。

同賞は経営・技術に優れた長年にわたって県の農業振興に貢献した個人・団体を称えるもの。受賞者とその功績は次のとおり（敬称略）。

(1) 兵庫六甲農業協同組合 淡河百合部会（神戸市北区）  
（独自のユリの系統育成と全国トップクラスの花き産地化に貢献）

部会発足当初から淡河独自のシンテツポウユリの交配育種に取り組み、従来品種より優れた系統育成に成功。部会

などして、話し合いの技術を経験した。

参加者からは、「場が和んで、意見の出しやすい環境を作ることが大事だと実感した」、「楽しく研修できた」などといった声が聞かれた。

同研修会は、1月と2月にかけて6地区で開催することとしている。

員全員参加型の自主運営体制を確立し、全国10か所の生花市場に出荷する県内唯一の切り花産地へ発展させた。

(2) 増田佳紀、薫（加西市）  
（ハボタンのポット栽培技術の確立と女性農業者の地位向上に貢献）

ハボタン栽培のポット栽培技術を確立。同技術の公表・指導、変温管理による省エネ技術の導入・実証などにより、北播磨地域における産地の礎を築いた。また、女性農業者の地位向上や後進育成に貢献した。

(3) 村上彰（朝来市）  
（コウノトリ育む農業を柱とした土地利用型農業モデルの

## 農林水産省と意見交換

### 県農業法人協会

県農業法人協会の会長、役員8人は12月3日、兵庫県民会館で農林水産省から「国内外における農業資材の供給の状況に関する調査」の結果について説明を受け、意見交換した。「農業資材価格の見える化」に取り組み同省から申し入れがあったもの。本省技術普及課の渡辺正宏

調査企画係長が、アメリカ、イタリア、韓国と比較して肥料、農薬、配合飼料などの国内調達コストがいずれも割高となる調査結果を報告。あわせて、インターネットによる農業資材価格の比較サービスや肥料・農薬などの銘柄数の集約による価格引き下げなどの施策を説明した。

確立と技術普及に貢献）  
環境創造型農業の先駆者として、環境に優しい農業に取り組む。コウノトリ育む農業にも先進的に取り組み、地域における土地利用型農業のモデルを確立した。

(4) 神野秀子（淡路市）  
（野シバ放牧の導入による但馬牛増頭と女性繁殖牛経営者の地位向上に貢献）

除糞作業の省力化などの必要性を感じて導入した野シバ放牧が、地域の放牧モデルとなり、但馬牛の増頭に貢献した。あわじ和牛愛好婦人友の会では、女性繁殖牛経営者の技術・地位向上などに貢献した。

### 農業者年金11月

#### 新規加入実績

兵庫県の農業者年金11月新規加入実績は次のとおり。  
（農業者年金基金11月受付処理分）  
姫路市 2人、南あわじ市 1人

# 三田市農業委員会 市長に意見書提出

三田市農業委員会はこのほど、三田市農業・農村施策に関する意見書を市長に提出し、その実現に向けた取り組みを要請した。新規就農支援体制の強化や人・農地プランづくりの一層の推進、遊休農地の発生防止・解消対策の充実などを求めている。

主要要請項目は次のとおり。

- ① 新規就農者等の総合相談窓口の設置と支援体制の確立
- ② 「人・農地プラン」の確立と支援策強化
- ③ 遊休農地の発生防止・解消の推進

## 県農業会議農地委員会結果

県農業会議は12月5日、第33回農地委員会を神戸市の県農業共済会館で開いた。

### 一 議事

(1) 農地等の転用のための権利移動の許可について

農地法第5条に関する香美町の転用事案1件について審議し、回答を保留して、現地調査を実施することとした。

(2) 農地賃貸借の解約等の許可について

農地法18条に関する加古川市の農地賃貸借の解約の申し入れ事案について審議し、許可相当と認め知事に答申する

こととした。

二 説明

改正農業経営基盤強化促進法等について農地調整室から、農地中間管理事業の5年後見直し等について農業経営課から、それぞれ説明があった。

三 協議

当面の農政問題について米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針、農林水産業・地域の活力創造プランの改訂について事務局が説明した。

(別表) 第33回農地委員会・農地法第5条関係処理状況

区分	農地区別処理件数						処理面積 (㎡)
	農振農用地	甲種	第1種	第2種	第3種	合計	
第5条	0	0	0	1	0	1	4594

- 発生防止・解消支援策の構築
- ④ 有害鳥獣被害対策の強化
- 被害解消対策にかかる補助制度等の支援拡充
- ⑤ 農業委員会の体制の整備
- 知識・経験を有する職員の措置

## 女性の力で農村を変える！テーマに

12月12日、静岡県掛川市で平成30年度東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会が開かれ、本県女性農業委員・農地利用最適化推進委員10人を含む137人が出席した。

記念講演では、静岡県の女性委員組織の初代会長で、NPO法人とうもんの会理事・

名倉光子氏が「女性の力で農村を変える！」と題して講演。県・国段階での女性委員組織結成の苦労話などを披露し、「地域からの推薦で委員になったからこそ、地域をよくする義務がある」と話した。

また、交流の一環として、静岡県内の女性委員らが作成し販売している「食育カルタ」を全員が体験した。

- 育成や増員など事務局体制の強化
- ⑥ 農地情報公開システム整備の支援
- システム整備に必要な予算措置

## 農業会議日誌

12月1日～12月31日

出席(神戸市)▽第11回ひょうご農業MBA塾開催(同市)

3日 農業委員会地区別交流研修会開催(養父市)▽農業経営者サポート事業ブロック会議出席(大阪府)▽県農業法人協会役員会出席(神戸市)

4日 県農業賞・林業省・水産賞表彰出席(神戸市)▽平成31年度予算概算決定に関するテレビ会議出席(京都府)

5日 第33回農地委員会開催(神戸市)

6日 県活性化協議会幹事会出席(神戸市)▽農業次世代人材投資資金審査会出席(同市)▽近畿版編集会議出席(京都府)

7日 集落営農法人リーダー等養成講座開催(加東市)

11日 県開発審査会出席(神戸市)▽農業経営トッププランナーセミナー開催(同市)

12日 東海・近畿ブロック女性の農業委員会研修会出席(静岡県)

13日 県農業委員会職員協議会研修大会出席(神戸市)▽第2回耕作放棄地放牧活用推進プロジェクト会議出席(同市)▽県稲作経営者会議役員会出席(同市)▽都道府県農業会議経理実務研修会出席(東京都・14日まで)

17日 農業者年金加入・受給相談会出席(たつの市)

18日 農地現地調査(香美町)

19日 県・兵庫みどり公社・農業会議連携会議出席(神戸市)

21日 農業者年金研修会出席(加西市)▽農業委員・推進委員合同研修会出席(豊岡市)

22日 新・農業人フェア働く！農業EXPO2018出席(大阪府)